

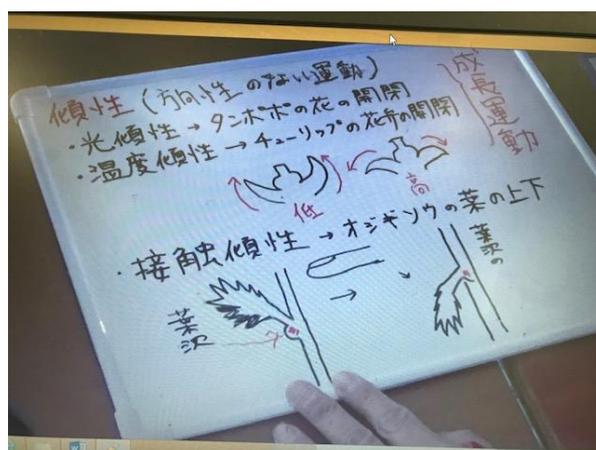
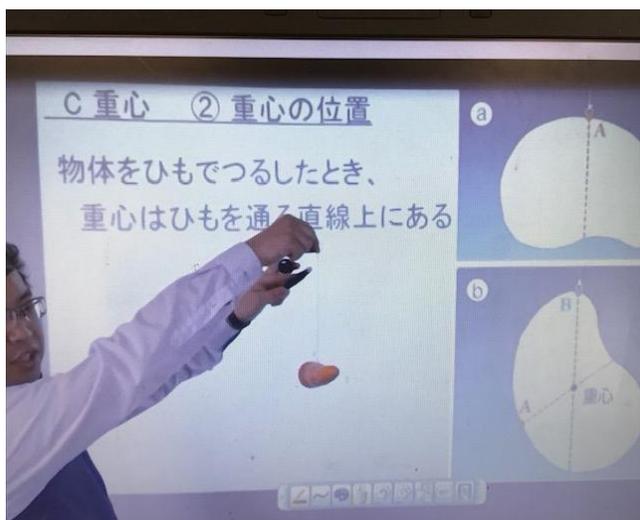
今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で行われた 理科の取り組みに関し、お伝えいたします。

◇ その1 自宅待機期間の課題

自宅待機期間にHPを使用して、各学年各科目の課題や取り組むべき学習について指示を行った。有意義な学習が家庭でも行えるように、課題や取り組むべき学習については、内容や量など考えて指示を行ったが、常にチェックできる状態になく、生徒とコミュニケーションを取ることも出来ず苦慮した。

◇ その2 web会議システムを利用したオンライン学習支援

オンラインで学習支援をする体制が出来たことで、各先生方は、まず観やすさを追求した。生徒はパソコンやテレビで観る生徒もいるが、スマートフォンで観る生徒も多数いる。スマートフォンの小さな画面で観ても、なるべく観やすくストレスなく視聴出来るように工夫した。電子黒板を最大限利用しながら演示実験を行ったり、板書をフル画面で撮影し説明をのせるアナログ的な方法や様々な形態を試しながら、最も学習効果のあるオンライン学習支援を模索した。



◇ その3 対面授業再開後の対応

オンライン授業では基本、教員からの一方向のみの形態であった為、理解度や到達度が把握出来ていなかった。また、オンラインをスムーズに視聴出来ない生徒もいた。そこで、対面授業再開後は、どれだけオンラインで学習支援した内容が定着しているかを調査し、授業内容の復習から丁寧に行った。今後の学習に必要な理解度や到達度に達するには時間が掛かったが、オンライン授業のおかげである程度の進捗があったことは、大変良かったと感じている。と同時に、生徒と教員が直接に向かい合って授業をすることの重要性を感じた。

◇ その4 現状と今後の課題

現状は感染症対策の為、授業内でディスカッションが出来ないことや、実験観察が十分に実施できないことに残念な思いがある。しかし、今後何らかの対策を考えて現状出来ない教育活動を実施できるように考えていきたい。